

# 絵本におけるジェンダー

—絵本の主人公性別が子どもの心理発達に及ぼすジェンダー圧力—

西川 晶子

## 1. はじめに

幼い子にとって絵本というまでもなく質量ともに優れた重要な文化財である。我が国の多くの地方自治体から赤ちゃんに絵本をおくるブックスタートといった行政の取り組みが行われ、すべての赤ちゃんと絵本の出会いが行政によって保障され、読み聞かせという優れたコミュニケーションとして、発展している。また、絵本は家庭のみならず、保育園や幼稚園でもさかんに読み聞かせがおこなわれており、他のテレビやインターネットといったメディアよりも、教育的なメディアであると考えられているのではないだろうか。

筆者は『絵本に描かれた冒険に関する論文（2015 西川）』において、幼児を対象とする絵本においては児童書における冒険とはことなり、母なるものから分離に対する逡巡や冒険そのものが短く、すぐに帰ってくる白昼夢の様に描かれているということ、などを指摘し、マーガレットマーラーによる分離個体化説を引用しながら幼い「冒険」について論じた。また「冒険」をモチーフとする絵本を検討する中でその主人公のほとんどが男の子であることから、絵本におけるジェンダーバイアスの強い世界観の根強さを図らずも見せつけられた。

本稿は絵本におけるジェンダーに関する過去の知見を概観し、2015年時点における100万部以上刊行の絵本「ミリオンぶっく2015」の分析を行い、よく売れた絵本が子どもたちに提示する世界観を探ってみようとするものである。

また行政が乳児に絵本を送るブックスタート、および2回目の絵本贈呈にあたるセカンドブック（3歳児もしくは、小学校入学時であったりする）の絵本リストの検討を通して、絵本におけるジェンダーが幼児の心理発達に及ぼす影響を考察してみようとするものである。

## 2. 過去の文献から「絵本におけるジェンダー」レビュー

### ①藤枝滯子 1983 主婦はつくられる

「絵本に見る女（の子）像男（の子）像」汐文社

絵本を（１）幼児の時期に（２）ストーリーの絵による視覚化を通して具体的にイメージを伝達し、（３）テレビのような一過性ではなく繰り返し繰り返し読まれることによって、子どもの意識形成に深く関与する、とした。そのうえで絵本におけるジェンダー問題を量的に明らかにしようとし、『改定日本の絵本 100 選』、『改定世界の絵本 100 選』『絵本の本箱 200 冊』にて選ばれた絵本を対象として男の子像、女の子像を調査した。その結果として女性の主人公の数が圧倒的に少なく、個性、行動の仕方、行動範囲などに歴然とした違いがあるとし、男の子は個性も多様なら行動の種類も多様で社会性を持ち、空間的にもひろがりを持つのにくらべると女の子のほうは総じて静的でムード的表現の手段、行為者としてよりも傍観者、見物人、男の子の行為の受け手に使われることが多く、家事手伝い（おつかい、子守り、料理）一人遊びあるいは脇役に助けられ保護されて行動するといったストーリーが驚くほどに多いと指摘している。

### ②斎藤美奈子 2001 『紅一点論』ちくま文庫

世の中はたくさんの男と少しの女からできている、またその数少ない座を射止めたヒロインは父親にとっての理想の娘である、ということを現実世界のみならず、アニメ、映画、漫画、偉人伝の例を引いて説明している。

### ③藤田由美子 2003 『子どもむけマス・メディアに描かれたジェンダー』九州保険福祉大学研究紀要 259 ～ 268

藤田は子供向けテレビ番組と絵本におけるジェンダー分析を行い、各メディアにおいてキャラクターの男女比はテレビで 6：4 絵本で 7：3 であることを

指摘した。絵本の年代別の検討では、80年代の刊行された絵本においてはおよそ6:4の男女比であることが見いだされた。また主人公の男女比についてはさらに女性が少なく、テレビで29.6%絵本で23.3%であった。またその役割においても男性が主導的、女性は補助的な役割を担っていることが明らかであった。また成長物語として描かれるなかで発達課題の違いが顕著に描かれていた。すなわち、男の子の発達課題は「弱虫」「ドジ」の克服であり、女の子の場合には「家庭性」の要求と「対」願望であることが明らかになった。

一方で先進的なジェンダー観のメディアを子どもに見せたとしても、子どもはそのままに受け取るのではなく、自身のジェンダー観にふさわしい解釈をすることを指摘している。

#### ④中川素子 2009 『第47回ジェンダーセッション』

中川は絵本はその優しい顔の中に現実世界の様相を潜ませている、として、社会文化的に理想とされた性のステレオタイプが闊歩しているとし、母親と父親の描かれ方に関して、子どもに愛情をそそぐ優しい母親と力強くて頼もしい父親、が非常に多いことを指摘しながらも、母親業や主婦業に疲れはてた女性が涙を流すだけでなく、家出という方法で豚のように怠惰な夫と息子たちの状況をかえようとする『おんぶはこりごり』という絵本を引用している。

また2羽のオスペンギンによる『タンタンタンゴはパパふたり』という同性愛カップルの子育てをなぞらえた絵本を同性同士の愛が偏見なくみられるようになる絵本だと紹介している。また佐野洋子による『女の一生』において、母親の出産時の股間の挿絵などによって美談とは対極の性的リアリズムを描いていることについて1992年という刊行年の早さを驚きをもって紹介している。

#### ⑤矢島毅昌 2010 『絵本のジェンダー研究・再考』 立教大学教育学科研究年報 167 - 182

藤枝論文以降の絵本のジェンダー研究における主な論点は、絵本というメディ

ア全般の傾向として存在するジェンダーバイアスを明らかにすること。作品内に描かれた具体的なジェンダーバイアスを明らかにすること、ジェンダーバイアスに捕らわれない男性像 / 女性像を描いた作品を提示することのいずれかであった、と述べているが、それまでの絵本におけるジェンダー研究は絵本全体という母集団に対して量的に行われ、1冊ずつの絵本に対する言及は断片的なものであったとし、軽視されがちであった視覚的分析を加えつつ、「かきもっとおむかえ』という1冊に対してカテゴリー連関における分析を行い、かならずしも性別カテゴリーにおける非対称性が描かれているものではないとしている。

⑥武田京子ら 2005 『幼児のジェンダーアイデンティティ形成過程とその要因』  
保育学研究 第43巻第2号

入園後の子どもたちのジェンダーアイデンティティ形成について保護者および保育者による幼児の行動評価、保育場面にあらわれたジェンダー的場面の検討を通して、保護者の性役割間観がステレオタイプ型の保護者はジェンダーフリーな幼児の行動を嫌う傾向があり、家事参加率が高い父親の性役割観が柔軟であること、幼児らの視聴しているテレビ番組については性別のはっきりしたことを報告している、ジェンダーバイアスの強い番組が視聴されていた。

⑦大滝世津子 2016 『幼児の性自認』 みらい

大滝や幼稚園3歳児クラスの継続的な観察から幼児が自分が男の子もしくは女の子であるとわかるようになるのは、幼稚園入園後の4月から7月にかけて起こることを明らかにした。従来の理論では養育者との関係において性自認が行われる（フロイト 1925, 1978）（チョドロウ 1978, 1981）とされてきたが、大滝は核家族や兄弟数の低下により、家庭での性自認が最初の集団である幼稚園入園後に移行したのではないかとしている。また3歳児にとって非対称の集団として男＞女という固定化はされておらず、また幼児にとって集団間の

非対称性は性自認後に認められるのではなく、性自認したときにはすでに周到に組み込まれており、性自認がおこなわれる3歳児期は介入可能な重要な時期であることが示唆された。

以上の文献と参考文献から絵本におけるジェンダーに関してまずもって言えることは、一貫して多様性と量において圧倒的に女性をしのぐ男性の主人公である。量的にも質的にも女性の主人公というものの自体の乏しさである。藤枝論文で既に示されているように、数少ない女性の主人公と男性の主人公とのあいだには行動様式にも差があり、広い世界へ主体的に出かけていく男性主人公に対して、狭い生活空間で内向きで受動的な振る舞いをする女性主人公の姿が指摘されている。

また、幼児の心理発達の観点からは、3歳クラス入園時の比較的短い期間に性自認がおこなわれ、入園前からの家族内での人間関係や入園後の人間関係や行事、様々なメディアからの影響によってジェンダーが内面化されていくものと予測される。様々な変数のなかで、絵本は繰り返し読まれることや、園や家庭で読み聞かせが幅広く行われ、児童文化財としての高い価値が認められていることから一定の影響力を持っていると考えられる。

### 3. 方法

本論では藤枝論文から30年あまり経過した現在、おなじようなジェンダーバイアスが絵本全体についてあるのかという点を明らかにするために、『ミリオンぶっく』という冊子に紹介された絵本を取り上げることとした。本冊子は図書取次のトーハンが2015年に発行した冊子である。累計100万部以上発行された絵本の総称を『ミリオンぶっく』と呼び、2006年より作成されている無料配布の冊子において紹介されている。一言でいえば、よく売れた絵本である。刊行年代別に絵本が紹介されており、1950年代から累計されているという性格上、発行年の古い絵本から順次ミリオンぶっくになっていくというシス

テムであり、今日最新の絵本の読まれ方というよりは過去から積み上げた数である。このことはテレビ番組などの一過性メディアとは異なり、絵本が一度購入されると、本棚に置かれ、繰り返し読まれる可能性のあるメディアであることとマッチした方法であるといえよう。

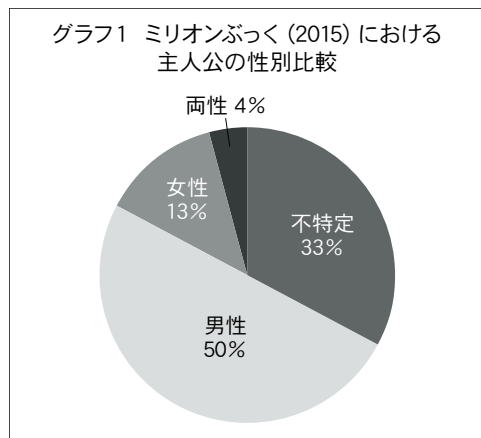
方法としては2015年版ミリオンぶっくに紹介された絵本を主人公の性別（男、女、両性、不特定）に分類した。例えば『くまのコールテンくん』『クレヨンのくろくん』『わたしのワンピース』のように動物や静物が主人公であっても服装や呼び名、振る舞いから性を特定した。両性とは『14ひきシリーズ』のように1家族が主人公として設定されており、両性の主人公が同じ重みで扱われているものに両性という分類をおこなった。不特定では、主人公が幼いため性が特定できない、もしくは無生物が主人公である場合に適用した。

また内容から冒険に類する絵本を抽出し、その主人公の性別、また行動様式について検討を行った。冒険の物語は瀬田貞二が『幼い子の文学』で指摘しているように「行きて帰りし物語」であり、古今東西の物語の原型ともいえる形式であり、安らかなる母なる場所から未知の場所に乗り出し、幾多の体験のうちに成長してやがて戻ってくるという物語の王道である。その中で性別役割がどのように描かれているのか、というところから子どもたちの置かれる絵本環境におけるジェンダーが浮き彫りになると考えたからである。

さらに行政がつくった子どものための絵本リストである、ファーストブック、セカンドブックの絵本リストにも注目し、主人公の性別比を行った。

## 4-1. 結果

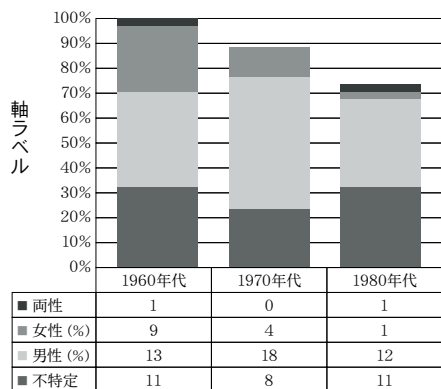
総ミリオンぶっく（2015）全 108 タイトルにおける主人公の性別  
全 108 タイトル



## 4-2. 発行年代別主人公の性別推移

年代毎の主人公の性別比を明らかにするために、作品数のまとまりのある1960、1970、1980年代を対象として時系列に比較を行った。1990、2000年代は作品数がそれぞれ、6作品、2作品と、主人公の性別を比較する母数にするには少なすぎるために割愛した。結果からは主人公は一貫して男性が女性よりも多い。性別の不特定の主人公も一貫して女性の主人公を凌いでいること、年代が新しくなるにつれて女性主人公の割合が低下していることが明らかになった。

グラフ2 冒険における主人公の性別推移





### 4-3. 主人公の行動様式の比較

表 1 ミリオンぶっく 2015 主人公の性別による冒険における行動様式比較

主人公が男の子				主人公が女の子			
	主体性	生活圏内	外界		主体性	生活圏内	外界
もりのなか	1	0	1	いたずらきかんしゃちゅうちゅう	1	0	1
どろんこハリー	1	0	1	うさこちゃんとうみ	1	0	1
ももたろう	1	0	1	うさこちゃんとどうぶつえん	1	0	1
しょうぼうじどうしゃじぶた	1	0	0	花さき山	0	1	0
ぐるんぱのようちえん	1	1	0	はじめてのおるすばん	0	1	0
ぐりとぐら	1	1		はじめてのおつかい	0	1	0
11ぴきのねこ	1	0	1	こんとあき	0	0	1
ぐりとぐらのおきゃくさま	1	1	0				
スーホの白い馬 モンゴル民話	0	1	0				
のせてのせて	1	0	1				
はけたよはけたよ	0	1	0				
モチモチの木	0	0	1				
ピーターラビットの本	1	0	1				
さむがりやのサンタ	1	0	1				
おいしいれのぼうけん	1	0	1				
かいじゅうたちのいるところ	1	0	1				
ぞうくんのさんぽ	1	1	0				
ぐりとぐらのかいすいよく	1	0	1				
ノントンのボールまてまて	1	1	0				
ぐりとぐらのえんそく	1	0	1				
新ウォーリーをさがせ！	1	0	1				
新タイムトラベラーウォーリーをさがせ	1	0	1				

新ウォーリーのふしぎなたび	1	0	1				
新ウォーリーハリウッドへいく	1	0	1				
ウォーリーのゆめのくにだい ぼうけん	1	0	1				
葉っぱのフレディ いのちの旅	1	1	0				
くれよんのくろくん	1	0	1				
とこちゃんはどこ	1	0	1				
こぐまちゃんとどうぶつえん	1	0	1				

2015 ミリオンぶっくにおいて主人公の性別でその行動様式を検討するために、主人公が男性と女性とそれぞれ判断でき、また冒険に類するような外界での活動が描かれた絵本として上記の絵本を抽出した。(全 36 タイトル)

まず男女比で見たときに女性が主人公の作品が男性のそれに比べて圧倒的に少ないことが特筆できる。藤田論文において子ども向け主人公の性別が量的に比較されていたが、本稿においてもおなじく量的に大きな差が見受けられる。行動様式についても男の子の主人公のほうが主体的に行動し、空間的にもおおきな広がりを持つものに対し、女性の主人公の行動様式が受動的で空間的な広がり乏しく、たよりないものであると指摘されている。本稿では主人公の冒険における振る舞いについて、冒険の端緒や冒険における振る舞いが主体的かどうか、冒険物語が生活圏内か見慣れた生活圏内から外界へと飛び出すのかという項目を設けて、比較した。

例えば、主人公が主体的に外界に出かける『もりのなか』『ももたろう』『ぐりとぐらのかいすいよく』『くれよんのくろくん』『とこちゃんはどこ』『1 1 びきのねこ』。異界といってよい大きな広がりを持つ『かいじゅうたちのいるところ』『おいしいのぼうけん』、主人公たちは見知らぬ世界へと出かけて、敵と戦ったり、獲物をしとめて満腹になったり、新しい友達をつくったりするという成長物語が展開される。

女の子の主人公の場合、そもそもの対象が非常に少ないことと、冒険であったとしても、『はじめてのおるすばん』に見られるように、お母さんの都合で新たな体験を余儀なくされる、というスタイルが『はじめてのおるすばん』『はじめてのおつかい』

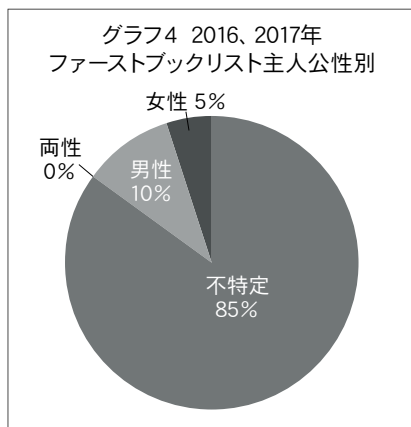
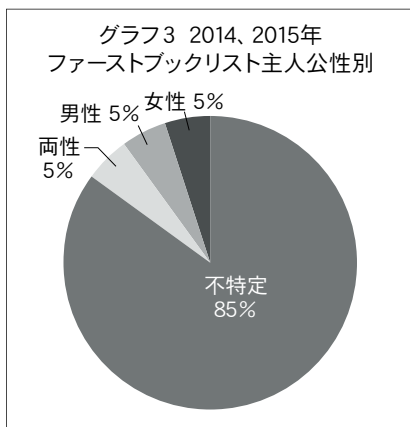
というタイトルでそろっている。『こんとあき』ではおばあちゃんのくれたきつねのぬいぐるみ「こん」の縫い目がほつれてしまったのでおばあちゃんの家に行って直してもらう。という展開であるが、おばあちゃんの住む町への冒険旅行をきつねの「こん」が主導しており、あきは「こん」についていくという、やや受動的な物語になっている。

#### 4-4. 特筆すべき絵本

特筆すべき点として『モチモチの木』では主人公が祖父の病気に直面して医師を呼びに行くという、冒険の目的が家族のためという点である。またもともと勇敢な少年という設定ではなく、夜一人で便所に行けない弱虫少年の成長物語としての冒険が描かれている点である。

女の子が主人公の物語『花さき山』は自己犠牲を称える教訓的物語であり、古いタイプの教訓絵本といえるだろう、幼い妹のために自分の晴着を我慢した女の子、双子の弟のために母親の乳房を我慢する兄、村人の命と引き換えに命をささげた勇敢な男が描かれているがこの教訓を語り継ぐのが山姥であり、教訓話の聞き手はごちそうの用意のために山に山菜を取りに来た女の子である、女の子、特にこの場合長女に対する社会的規範の強さを思わずにはいられない。

以上二つの絵本は2作とも斎藤隆介氏作、絵が滝平二郎氏の切り絵によって独特の日本の農村の雰囲気表現されており、幼い子が見たときには奥深さとともに怖さを感じる絵本である。非常に近い印象を持つ2冊の絵本が、一方は弱虫の少年の成長ともう一方は旧弊な社会規範を色濃く反映した女の子の物語というところに、男性主人公の多様性と女性主人公への規範の強さを図らずも良く示している2作品である。



「絵本の選考は、赤ちゃんや絵本に関する知識と経験が豊富な選考委員（乳幼児発達の専門家、司書、保育士など）による独立した中立的な「絵本選考会議」で行われ、NPOブックスタートや出版社の意向が反映されることは一切ありません。選考基準

- 赤ちゃんが保護者と豊かな言葉を交わしながら楽しい時間を過ごすことで、心健やかに成長することを応援する絵本
  - 上記に関し、年月を経て赤ちゃんから支持され続けてきた絵本
  - 上記に関し、今後、赤ちゃんからその支持を受ける可能性が高い絵本」
- ブックスタートジャパンHPより抜粋

## 5-1. 行政が選ぶ絵本

ブックスタートとはイギリスを起源として全国900余りの自治体で行われる、主に乳児の健診時に赤ちゃんと保護者におすすめの絵本リスト（5冊から10冊程度）から1冊選んでもらい、プレゼントして絵本を通した親子の触れ合いを促進する取り組みである。絵本のリストはブックスタートジャパンというNPO法人が独立した中立的な立場で専門家によって2年に一度選定される。

ブックスタートにおける絵本リスト（各20タイトル）では対象児の幼さからも、主人公の性別は不特定であることが多く、乳児がまだ性自認以前の非性的な存在であり、ジェンダーバイアスの影響を受けにくい存在である可能性が高いことが示唆された。

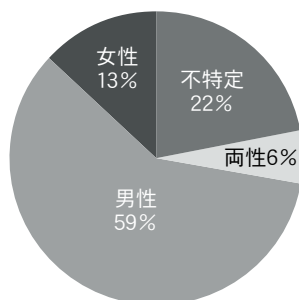
## 5-2. セカンドブックスタートにおける絵本リスト

ブックスタートの後3歳児や小学校入学時にもリストの中から1冊絵本をプレゼントする取り組みがおこなわれている。多くの場合、ボランティア、教員、や司書によって選ばれた絵本であり、5年から10年で見直し更新されるという。今回の調査では小学校入学時に行っている、山梨市、茅野市、東京都葛飾区、埼玉県行田市におけるセカンドブックスタートのリストを得ることができた。関係の図書館の方々にはお礼を申し上げる。本稿では小学校入学時のセカンドブックリストに絞り、主人公性別を検討した。

## 5-3. 長野県茅野市セカンドブック主人公性別比較

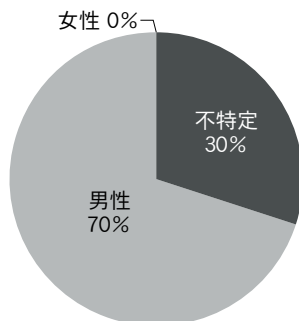
茅野市では小学校入学時に市内の図書館から全30タイトルのリストが配布され、1冊がプレゼントされるという取り組みがされている。女性の主人公の少なさで見るとミリオンぶっく2015よりもさらに低い割合であることが分かった。

グラフ5 茅野市セカンドブックリスト  
主人公性別



#### 5-4. 山梨市セカンドブック主人公性別

グラフ6 山梨市セカンドブックリスト  
主人公性別



山梨市ではファーストブックに続き、3歳児のセカンドブック、小学校入学時のサードブック事業を実施している。リスト選定には小学校の図書主任、小学校図書館司書、市立図書館司書が選定を行い、選定時の注意点が以下の文言が付与されている。以下山梨市HPより抜粋

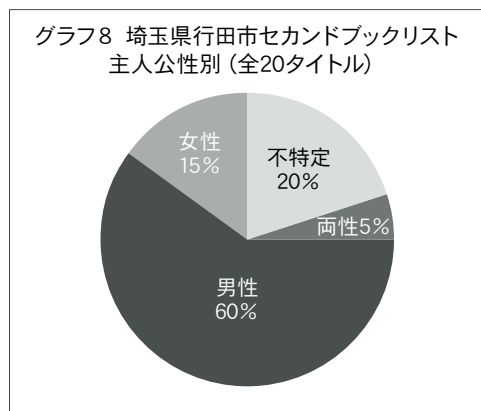
- ①児童が親や身近な大人と楽しむことができ、豊かな読書活動が行えるような発達段階にあったもの。

②長い間読み継がれたものや、近年出版された中で子どもたちに読んでほしいと思われるもの。

③日本の作品や外国の作品、また絵本・幼年童話・昔話・言葉・科学読み物といった幅広い分野から選定されたもの。

選定の理由から、子どもたちの発達段階に即して、古今東西様々な分野から選定したということではあるが、主人公性別においては、女性の主人公はゼロという結果だった。

## 5-5. 埼玉県行田市セカンドブックリスト主人公性別 (全 20 タイトル)



セカンドブックリストにおける女性主人公比は0%から最大であった行田市15%男性主人公は39%から70%であり、小学校入学時点においてメディアにおける主人公の現れ方には、女性主人公の不可視ということが明らかだった。セカンドブックの選定は各自治体によるもの図書館、教育関係者、市民ボランティアによって行われている。ミリオンぶっく2015の結果からそもそも女性主人公の本が少ないためにリストにも乗らないことは容易に想像できる。また一方で筆者による長野県の図書館司書の方へのインタビューでは、絵本リストを作るときに、ジェンダーフリーの視点はことさらに考えていない、という話

であった。また、保護者が「子どもになにかいい本がないか？」と尋ねられる場合の背景として、子どもの問題行動をなんとかしたいという保護者が、しつけやモデルとなる絵本をもとめる、というエピソードからも絵本が旧来型の無意識にジェンダーバイアスの影響を受けた教育的、保守的メディアであることが示唆された。

## 6. 結果まとめ

- ・ミリオンぶっく 2015 における主人公性別比は男性 50% 不特定 33% 女性 13% 両性 5% であった。
- ・ミリオンぶっく 2015 における主人公の性別比をタイトル数が一定以上あり比較可能な年代で刊行年代別に比較したところ、女性の主人公比は 1960 年代から 1980 年代にかけてタイトル数および全体における割合ともに減少していた。
- ・ミリオンぶっく 2015 における冒険の物語における主人公の振る舞いを比較した結果、男性主人公がより主体的で生活圏外に冒険を繰り広げ、女性主人公は生活圏内で受動的な行動であることが分かった。
- ・乳幼児の親子に絵本を贈るファーストブックのリストは専門家によって中立的に選定され、ほとんどの絵本が性別不特定であった。
- ・小学校入学時に本を贈るセカンドブックの取り組みは各自治体によって独自の絵本リストが作成されるが、4つの自治体の選定した絵本リストにおいては、女性の主人公は男性主人公の3分の一から4分の1程度またゼロという結果であった。

## 7. 考察

絵本の主人公の振る舞いは、それを読む子どもたちの豊かな感受性によってなんらかのモデルとして繰り返し読まれ続け、深く蓄積されていくであろう。とすれば、現状の絵本というメディアが子どもたちに示している世界はかなり



旧来型の世界であることは否めない。藤枝論文から 30 年余り、まだまだ絵本におけるジェンダーフリーは端緒に着いたばかりといえる状況であることが再認された。年代の推移でみるならば、女性の主人公は 70 年代から 80 年代にかけてむしろ減少しているというデータさえ見られる結果であった。

主人公の行動としては、男の子は多様なキャラクターが描かれ、時空間ともにダイナミックな冒険にでかけて成長していく。対して女の子はそもそも描かれる絶対数が少なく、バリエーションに乏しく、描かれたとしても、受動的で補助的な役割を担い、家庭を中心とした比較的狭い世界で人間関係を維持し家事子育てを担う姿が絵本の主人公として表現されていた。

大滝（2016）によれば幼児は初めての集団生活である幼稚園の年少クラス 4 月から 7 月にほぼ全員が性自認ができるようになるという。ブックファーストのリストにおける性の不特定、6 歳時点となるブックリストにおいて性別不特定が 20 ～ 30% 台に減り、男性主人公が最大 70% 女性主人公が最低 13% と男女間における大きな非対称が公的な色合いをもつブックリストにも表れていたことは、子どもたちが 3 歳の入園後から急速にジェンダーステレオタイプを内面化していくことと符合する。

今後の課題としては、3 歳時以降行われるジェンダーの内面化と幼児の接触するメディアとの関係を明らかにしていくこと、成人の性別役割分業への態度と想起される親しんだテレビ番組や絵本などの相関を検討するといった研究が期待される。

## 8. 展望

本研究は 2016 年夏から冬にかけて行われた。本務である短大での教員としても常々、女子学生のありよう、男子学生のありようについて、様々な疑問や違和感を感じていたが、今回の研究によってそもそも女性の主人公がいない、見えない、もしくはいたとしても、ステレオタイプな女の子であることがあらためて確認され、驚きをもって受け止めた。

思えば、筆者自身が憧れた、数少ない血沸き肉躍るような活動的なヒロイン、『長靴下のピッピ』や『小さい魔女』は北欧やドイツの著作であり、実際の個人の人生においてはリアルな生き方のモデルとなるような女性主人公は身近にはなかなか探せなかったと思う。また男女雇用機会均等法直後の就職組であることから、我が国においては職場における男女の平等すら、端緒に着いたばかりで多くの同じ世代の女性たちが旧来の女性像から新しい女性像への模索の第一歩を踏み出した世代であると感じる。

娘の育児の時間、絵本は我々親子に素晴らしい関係や空間を与えてくれはしたが、わくわくさせてくれた主人公の多くが男の子であることに当時は気づけなかった。クラスの中でとびぬけて長身でそのことをやや気に病んでいた娘と一緒に楽しめる女主人公はなかなか見つからなかったが、『せかいいちおおきな女の子のものがたり』富山房では野卑な男たちのからかいを軽くいなし、ヒグマとの闘いに買って人々とヒグマの肉の酒宴を楽しむ主人公のおおらかな姿を親子で胸をふくらませて楽しんだものだった。(残念ながら現在絶版) いままでもこれからも女の子たちはモデルの少ない社会で唯一無二の人生を作り上げていかなくてならない。そんな女の子たちにちょっとしたヒントを与えたり、これでいいのだと安心したり、広大な世界のどこまでも夢を膨らませたりできる、多様な女主人公がもっともっと増えてくれることを切に願う。

## 9. 謝辞

本稿執筆に際して、職場である信州豊南短期大学の教職員の皆さん、また各自治体図書館の方々、家族の協力なくしては、本稿は完成しなかった。心からお礼申し上げます。

## 10. 引用・参考文献

- 瀬田貞二 1980『幼い子の文学』 中公新書
- 藤枝滯子 1983『講座主婦 1 主婦はつくられる』『絵本にみる女(の子)像・男(の子) 像』 汐文社
- 斎藤美奈子 2001『紅一点論』 ちくま文庫
- 藤田由美子 2003『子どもむけマス・メディアに描かれたジェンダー』 九州保険福祉大学紀要 4：256~268
- 中川素子 2009『女と絵本と男』 翰林書房
- 武田京子ら 2005『幼児のジェンダーアイデンティティ形成過程とその要因』 保育学研究 第43巻第2号
- 矢島毅昌 2010『絵本のジェンダー研究・再考』 立教大学教育学科研究年報 167 - 182
- 大滝世津子 2016『幼児の性自認』 みらい

## 11. 付表

表 1 ミリオンぶっく 2015 版主人公性別比較

刊行年代	書名	主人公	不特定	男	女	冒険
1950 年代	ちいさいおうち	おうち	1	0	0	0
	ひとまねこざる	ジョージ	0	1	0	0
	きかんしゃやえもん	きかんしゃやえもん	0	1	0	0
1960 年代	いたずらきかんしゃちゅうちゅう	きかんしゃちゅうちゅう	0	1	0	1
	もりのなか	ぼく	0	1	0	1
	どろんこハリー	ハリー	0	1	0	1
	うさこちゃんとうみ	うさこちゃん	0	0	1	1
	うさこちゃんとうぶつえん	うさこちゃん	0	0	1	1
	ちいさなうさこちゃん	うさこちゃん	0	0	1	0
	うさこちゃん	うさこちゃん	0	0	1	0
	ももたろう	ももたろう	0	1	0	1
	しろいうさぎとくろいうさぎ	しろいうさぎとくろいうさぎ	0	1	1	0
	3びきのやぎのがらがらどん	3びきのがらがらがらどん	1	0	0	1
	てぶくろ ウクライナ民話		1	0	0	0
	しょうぼうじどうしゃじぶた	しょうぼうじどうしゃじぶた	0	1	0	1
	おおきなかぶ ロシアの民話		1	0	0	0
	かばくん	かばくん	0	1	0	0
	ぐるんぱのようちえん	ぐるんぱ	0	1	0	1
	ぐりとぐら	ぐりとぐら	0	1	0	1
	そらいろのたね	ゆうじ	0	1	0	0
	11 びきのねこ	11 びきのねこ	0	1	0	1
	いないいないばあ		1	0	0	0
	いいおかお		1	0	0	0
	おおかみと七ひきのこやぎ	7ひきのこやぎ	1		0	1
	ぐりとぐらのおきやくさま	ぐりとぐら	0	1	0	1
	スーホの白い馬 モンゴル民話	スーホ	0	1	0	1
	だるまちゃんとてんぐちゃん	だるまちゃんとてんぐちゃん	1	0	0	0
	もうねんね		1	0	0	0
	のせてのせて	まこちゃん	0	1	0	1
	おさじさん	おさじ	1		0	0
	しずくのぼうけん	しずく	1	0	0	0
	いやだいやだ		0	0	1	0
	にんじん		1	0	0	0
	ねないこだれだ	るるちゃん	0	0	1	0
	もじゃ もじゃ		0	0	1	0
	花さき山	あや	0	0	1	1
	わたしのワンピース	わたし	0	0	1	0

1970 年代	もしもしおでんわ	モモちゃん	0	0	1	0
	おふろでちゃぶちゃぶ		1	0	0	0
	かわいそうなぞう		1	0	0	0
	はけたよはけたよ		0	1	0	1
	あかちゃんのうた		1	0	0	0
	モチモチの木	豆太	0	1	0	1
	ピーターラビットの木	ピーター	0	1	0	1
	はははのはなし		1	0	0	0
	はじめてのおるすばん	みほちゃん	0		1	1
	おばけのバーバパパ	バーバパパ	0	1	0	0
	しろくまちゃんのほっとけーき	しろくまちゃん	0	0	1	0
	あーんあん	男の子	1	0	0	0
	とけいのほん		1	0	0	0
	からすのパンやさん	からすのパンやさん	0	1	0	0
	ねずみくんのチョッキ	ねずみくん	0	1	0	0
	さむがりやのサンタ	サンタ	0	1	0	1
	おいしいのぼうけん	さとしとあきら	0	1	0	1
	かいじゅうたちのいるところ	マックス	0	1	0	1
	はらぺこあおむし	あおむし	1	0	0	0
	ノンタンぶらんこのせて	ノンタン	0	1	0	0
	ノンタンおやすみなさい	ノンタン	0	1	0	0
	あかんべノンタン	ノンタン	0	1	0	0
	ぞうくんのさんぽ	ぞうくん	0	1	0	1
	はじめてのおつかい	みいちゃん	0	0	1	1
	ぐりとぐらのかいすいよく	ぐりとぐら	0	1	0	1
	もこもこもこ		1	0	0	0
	ノンタンおよぐのだいすき	ノンタン	0	1	0	0
	100 万回生きたねこ	ねこ	0	1	0	0
	ノンタンおねしょでしょん	ノンタン	0	1	0	0
	ノンタンサンタクロースだよ	ノンタン	0	1	0	0
1980 年代	ノンタンあわぶくぶくぶぶふう	ノンタン	0	1	0	0
	ノンタンのたんじょうび	ノンタン	0	1	0	0
	みんなうんち		1	0	0	0
	くだもの		1	0	0	0
	アンパンマンのサンタクロース	アンパンマン	0	1	0	0
	おふろだいすき	ぼく	0	1	0	0
	きんぎょが にげた		1	0	0	0
	ノンタンのボールまてまて	ノンタン	0	1	0	1
	ぐりとぐらのえんそく	ぐりとぐら	0	1	0	1
	じゃあじゃあびりびり		1	0	0	0
	1 4 ひきのあさごはん	1 4 ひき	0	1	1	0

1980 年代	まどから★おくりもの		1	0	0	0
	おつきさまこんばんは		1	0	0	0
	わすれられないおくりもの	アナグマ	0	1	0	0
	がたんごとんがたんごとん		1	0	0	0
	ノントンおしっこシーシー	ノントン	0	1	0	0
	新ウォーリーをさがせ!	ウォーリー	0	1	0	1
	新タイムトラベラーウォーリーをさがせ	ウォーリー	0	1	0	1
	なぞなぞえほん 3 巻セット		1	0	0	0
	いないいないばああそび		1	0	0	0
	ごあいさつあそび		1	0	0	0
	いただきますあそび		1	0	0	0
	こんとあき	あき	0	0	1	1
	ひとりであんちできるかな		1	0	0	0
1990 年代	新ウォーリーハリウッドへいく	ウォーリー	0	1	0	1
	うずらちゃんのかくれんぼ	うずらちゃん	1	0	0	1
	はらべこあおむし	あおむし	1	0	0	0
	ウォーリーのゆめのくにだいぼうけん	ウォーリー	0	1	0	1
	葉っぱのフレディ いのちの旅	フレディ	0	1	0	1
	そらめくんのベッド	そらめくん	0	1	0	0
2000 年代	だるまさんが	だるまさん	0	1	0	0
	くれよんのくろくん	くろくん	0	1	0	1
NEXT	はなをくんくん		1	0	0	0
	とけいのほん2		1	0	0	0
	14ひきのひっこし	14ひき	0	1	1	1
	どうぶつのおやこ		0	1	1	0
	すてきな3にんぐみ	3にんぐみ	0	1	0	0
	おしゃべりなたまごやき	王様	0	1	0	0
	とこちゃんはどこ	とこちゃん	0	1	0	1
	こぐまちゃんとどうぶつえん	こぐまちゃん	0	1	0	1

表2 ファーストブックリスト 2016, 2017 年 ブックファーストジャパンHP より引用

書名	作者	出版社	不特定	両性	男	女
『あそび』	作 / ヘレン・オクセンバリー	文化出版局	1	0	0	0
『いないいないばあ』	文 / 松谷みよ子 絵 / 瀬川康男	童心社	1	0	0	0
『おつきさまこんばんは』	作 / 林明子	福音館書店	1	0	0	0
『おふろで ちゃぶちゃぶ』	文 / 松谷みよ子 絵 / いわさきちひろ	童心社	0	0	1	0
『がたん ごとん がたん ごとん』	作 / 安西水丸	福音館書店	1	0	0	0
『かにこちゃん』	作 / 岸田鈴子 絵 / 堀内誠一	くもん出版	0	0	0	1
『くだもの』	作 / 平山和子	福音館書店	1	0	0	0
『くつついた』	作・絵 / 三浦太郎	こぐま社	1	0	0	0

『ごぶごぶ ごぼごぼ』	作 / 駒形克己	福音館書店	1	0	0	0
『じゃあじゃあ びりびり』	作・絵 / まついのりこ	偕成社	1	0	0	0
『だっだあー』	作 / ナムーラミチヨ	主婦の友社	1	0	0	0
『だるまさんが』	作 / かがかいひろし	ブロンズ新社	1	0	0	0
『ちょうちょう ひらひら』	文 / まど・みちお 絵 / にしまきかやこ	こぐま社	1	0	0	0
『ととけっこう よがあげた』	案 / こばやしえみこ 絵 / ましませつこ	こぐま社	1	0	0	0
『はらへこあおむし(ボードブック)』	作 / エリック・カール 訳 / もりひさし	偕成社	1	0	0	0
『びよーん』	作・絵 / まつおかたつひで	ポプラ社	1	0	0	0
『ぶうさんのブー』	作 / 100% ORANGE (及川賢治・竹内繭子)	福音館書店	0	0	1	0
『もう おきるかな?』	文 / まつのまさこ 絵 / やぶうちまさゆき	福音館書店	1	0	0	0
『もこ もこもこ』	作 / 谷川俊太郎 絵 / 元永定正	文研出版	1	0	0	0
『ゆめ にこにこ』	作・絵 / 柳原良平	こぐま社	1	0	0	0

表3 ファーストブックリスト 2014, 2015 年 ブックファーストジャパンHP より引用

2014.2015 年	作者		不特定	両性	男	女
『あそび』	作 / ヘレン・オクセンバリー	文化出版局	1	0	0	0
『あっ!』	文 / 中川ひろたか 絵 / 柳原良平	金の星社	1	0	0	0
『いない いない ばあ』	文 / 松谷みよ子 絵 / 瀬川康男	童心社	1	0	0	0
『おつきさま こんばんは』	作 / 林明子	福音館書店	1	0	0	0
『おふろで ちゃぶちゃぶ』	文 / 松谷みよ子 絵 / いわさきちひろ	童心社	0	0	1	0
『おやすみ』	作 / 中川李枝子 絵 / 山脇百合子	グランマ社	0	1	0	0
『がたん ごん がたん ごん』	作 / 安西水丸	福音館書店	1	0	0	0
『かにこちゃん』	作 / 岸田鈴子 絵 / 堀内誠一	くもん出版	0	0	0	1
『ぎゅっ ミニブック』	作・絵 / ジェズ・オールバラ	徳間書店	1	0	0	0
『くだもの』	作 / 平山和子	福音館書店	1	0	0	0
『ごぶごぶ ごぼごぼ』	作 / 駒形克己	福音館書店	1	0	0	0
『じゃあじゃあ びりびり』	作・絵 / まついのりこ	偕成社	1	0	0	0
『ちょうちょう ひらひら』	文 / まど・みちお 絵 / にしまきかやこ	こぐま社	1	0	0	0
『どうぶつのおやこ』	画 / 数内正幸	福音館書店	1	0	0	0
『とってください』	作 / 福知伸夫	福音館書店	1	0	0	0
『ととけっこう よがあげた』	案 / こばやしえみこ 絵 / ましませつこ	こぐま社	1	0	0	0
『のりもの つみき』	作 / よねづゆうすけ	講談社	1	0	0	0
『びよーん』	作・絵 / まつおかたつひで	ポプラ社	1	0	0	0
『みず ちゃぼん』	作 / 新井洋行	童心社	1	0	0	0
『もこ もこもこ』	作 / 谷川俊太郎 絵 / 元永定正	文研出版	1	0	0	0
			17	1	1	1

表4 茅野市セカンドブックリスト 小学校入学時

	書名	出版社	不特定	両性	男性	女性
1	版画 のはらのうた	童話堂	1			
2	たんぼぼ	福音館書店	1			
3	しずくのぼうけん	福音館書店	1			
4	のはらクラブのこどもたち	理論社				1
5	100 まんびきのねこ	福音館書店		1	1	
6	もりのなか	福音館書店			1	
7	かもさんおとおり	福音館書店	1			
8	ラチとらいおん	福音館書店			1	
9	ちいさいおうち	岩波書店	1			
10	ひとまねこぎるときいろいろぼうし	岩波書店			1	
11	チムとゆうかななせんちょうさん	福音館書店			1	
12	くんちゃんのはじめてのがっこう	ペンギン社			1	
13	あおい目のこねこ	福音館書店	1			
14	ふたりはともだち	文化出版局			1	
15	番ねずみのヤカちゃん	福音館書店			1	
16	おおかみと七ひきのこやぎ	福音館書店		1		
17	パンのかけらとちいさなあくま	福音館書店			1	
18	王さまと九人のきょうだい	岩波書店			1	
19	11 ひきのねこ	こぐま社			1	
20	せんたくかあちゃん	福音館書店				1
21	おおきなきがほしい	偕成社			1	
22	びゅんびゅんごまがまわったら	童心社			1	
23	はじめてのキャンプ	福音館書店				1
24	くまの子ウーフ	ポプラ社			1	
25	車のいろは空のいろ 白いぼうし	ポプラ社			1	
26	ももたろう	福音館書店			1	
27	かさじぞう	福音館書店			1	
28	だいくとおにろく	福音館書店			1	
29	かちかちやま	福音館書店	1		1	
30	きつねにようぼう	福音館書店				1

表5 山梨市セカンドブックリスト

	書名	出版社	不特定	両性	男性	女性
1	あんちゃん	童心社	0	0	1	0
2	おさるがふねを書きました	国土社	1	0	0	0
3	エルマーのぼうけん	福音館書店	0	0	1	0
4	おこだてませんように	小学館	0	0	1	0
5	おへそのあな	B.L出版	1	0	0	0
6	かえるをのんだととさん	福音館書店	0	0	1	0



7	かぶとむしランドセル	PHP研究所	0	0	1	0
8	ことばあそびどうぶつえん	のら書店	1	0	0	0
9	としょかんねずみ	瑞雲舎	0	0	1	0
10	ともだちや	偕成社	0	0	1	0
11	おおかみ王ロボ	ひさかたチャイルド	0	0	1	0
12	のっぺらぼう	ポプラ社	0	0	1	0
13	ふくろうはかせのものまねぞう	ひさかたチャイルド	0	0	1	0
14	ふしぎなキャンディーやさん	金の星社	0	0	1	0
15	へちまのへーたろー	教育画劇	0	0	1	0
16	ばくのかえりみち	BL出版	0	0	1	0
17	まぐらのせんにん	佼成出版社	0	0	1	0
18	りんごかもしれない	ブロンズ新社	1	0	0	0
19	ずら〜りカエルならべてみると	アリス館	1	0	0	0
20	三びきのやぎのがらがらどん	福音館書店	1	0	0	0
			6	0	14	0

表6 埼玉県行田市セカンドブックリスト

	書名	出版社	不特定	両性	男性	女性
1	いっすんぼうし	福音館書店			1	
2	てぶくろ	福音館書店		1		
3	ももたろう	福音館書店			1	
4	ほしになつたりゅうのきば	福音館書店			1	
5	ねむりひめ	福音館書店				1
6	しょうたとなつとう	ポプラ社			1	
7	あめがふるとちようちようはどこへ	金の星社	1			
8	かさぶたくん	福音館書店			1	
9	くまの子ウーフ	ポプラ社			1	
10	エルマーのぼうけん	福音館書店			1	
11	なぞなぞの好きな女の子	学研プラス				1
12	ふたりはともだち	文化出版局			1	
13	でんしゃでいこうでんしゃでかえろう	ひさかたチャイルド	1			
14	はらぺこあおむし	偕成社	1			
15	トイレにいていいですか	あかね書房			1	
16	手ぶくろを買いに	偕成社	1			
17	ともだちくるかな	偕成社			1	
18	どろんこハリー	福音館書店			1	
19	さっちゃんのまほうの手	偕成社				1
20	せかいいちおおきなおうち	好学社			1	
			4	1	12	3